

## 業界初、廃石膏ボードの水平リサイクル共同実証実験を開始 森ビル、船場、チヨダウーテ、トクヤマ・チヨダジプサムの企業連携による 石膏ボードの資源循環モデル構築を目指す

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻慎吾)は、資源循環型都市の実現に向け、株式会社船場(本社:東京都港区、代表取締役 八嶋大輔)(以下「船場」)、チヨダウーテ株式会社(本社:三重県四日市市、代表取締役社長 平田芳久)及び、株式会社トクヤマ・チヨダジプサム(本社:三重県三重郡川越町、代表取締役社長 加藤弘義)と協業し、建築物の壁や天井の内装材などで使用される石膏ボードの100%水平リサイクル“ボード to ボード”の共同実証実験(以下「本実証実験」)を実施いたします。

### 共同実証実験開始の背景

石膏ボードの廃棄量は、2032年には日本全国における廃棄量が200万トン、2047年には300万トンを超えると推定される一方、リサイクル率が低く、管理型最終処分場の逼迫が懸念されています。また、火力発電所等から副産物として採取される石膏原料は減少しており、現在では年間約200万トン以上もの天然石膏を海外からの輸入に依存しています。この点について、安定供給に対する懸念および天然資源の保全の観点からも課題となっており、天然石膏に依存しない、廃石膏ボードの再利用化が求められています。

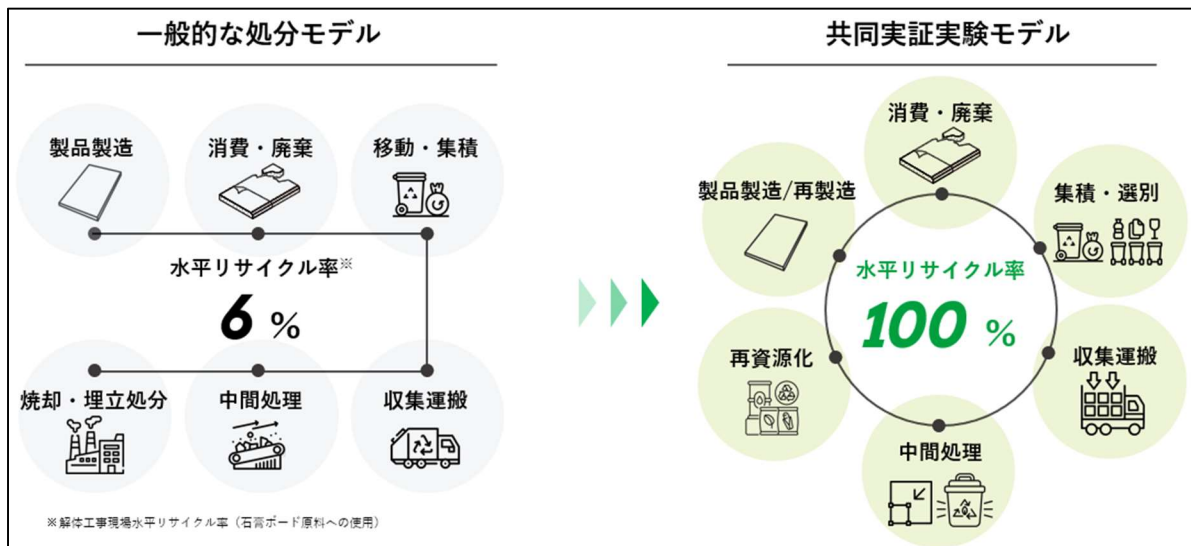
### 廃石膏ボードの水平リサイクルのスキーム

これらの課題を解決するため、施工事業社(森ビル)、内装業者(船場)、建築資材メーカー(チヨダウーテ)、廃石膏ボードリサイクル会社(トクヤマ・チヨダジプサム)の連携により、水平リサイクルを実現します。

森ビルは、本実験を主導する立場として、管理運営する施設におけるサーキュラー石膏ボード(廃石膏ボードから作られたリサイクル石膏を100%使用して製造された石膏ボード)の導入促進や、廃石膏ボードの水平リサイクル・資源循環の促進、廃石膏ボードの排出量集計・記録と情報管理、分別状況の確認と提携中間処理施設への引き渡しをおこないます。



今後、検証結果をもとに各企業間のパートナーシップにより、廃石膏ボードの水平リサイクルを前提した資源循環型サプライチェーンを構築し、資源循環型都市の実現に向け、取り組みを推進してまいります。



一般的な処分モデルと今回の共同実証実験モデルの比較

**〈参考〉これまで森ビルが実施した建築物の内装における環境配慮の取り組み**

**・2000年 フォレストシーリングシステム導入**

従来日本で主流であった「ライン型」システム天井に替わり、主に欧米で用いられている「グリッド型システム」を採用。日本の環境に合わせるため、サイズや仕様の変更を行ったほか、グリッドサイズに合うパネル・照明・空調を各メーカーとともに開発し、赤坂溜池タワーで初導入。

**・2009年 クォータースケルトン導入**

天井とカーペットのみ仕上げのない状態で貸室を引き渡し、テナント入居時に発生していた未使用廃材をなくす当社独自の仕組みである「クォータースケルトン方式」を導入。入居工事の費用削減や工期短縮に高い効果があるほか、内装選択の自由度向上や、環境への意識が高いテナントのニーズを満たす方式。

**・2009年 タイルカーペット 100%リサイクルシステム実現、エコマーク認定品カーペットを標準採用**

当社オフィスビルにおいてテナント退去時に発生する使用済みタイルカーペットを再資源化するシステムを確立。さらに、エコマーク認定品のタイルカーペットを標準採用することにより、業界で初めて、タイルカーペットの 100%リサイクルシステムが実現。

**・2021年 タイルカーペット 100%リサイクルでカーペット to カーペットを開始**

東リ株式会社の「タイルカーペット新リサイクルプラント」の本格稼働を受け、森ビルは 2021 年 11 月に東リと提携し、管理運営するオフィスから発生する使用済みタイルカーペットをパイル層も含め、100%カーペットへリサイクルするシステムを第一弾案件としスタート。撤去から収集・運搬まで東リ株式会社が一貫して行うことで、トレーサビリティを確保した水平リサイクルの仕組みが実現。



【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp